

# けやき

令和4年7月15日発行



## 職業、特に先生という職業について思うこと

校長 原田 博幸 先生



河東中学校では、キャリア教育にも力を注いでいます。進路学習はもちろん、望ましい職業観や勤労観についても学習を重ねています。ここ数年、コロナ禍でワクワクワーク（職場体験学習）ができない状況の中、各学年の先生たちはこれに変わるものを総合的な学習の時間を中心に計画を立てて実行してくれています。

中学生の時期に、将来の職業や自分の役割を考えることは大変意義深いことです。はやく将来のことを決めたほうが良いということではなく、将来へ展望を持つことがより現在を充実させ、情報のアンテナを広げることにつながるからです。

私たち教師の大先輩で、日本を代表する教育者である森信三先生の言葉を紹介します。森信三先生は、かつてこういう話をされました。

「人間は、生まれてくるとき、一人一人に天から封書（手紙）をもらって生まれてくる。その封書（手紙）にはそれぞれ各自の役割が書かれ、生まれてきた意味が書かれている。」

と語られました。つまり、我々は、生まれてくる意味・目的がそれぞれにあるというわけです。ただ、その封書が心の中のどこにしまってあるのかはわかりません。そして、その封書がいつ開かれるのか、何がきっかけで開かれるのかもわかりません。

河東中では1月になると9年生の入試面接の練習をしています。毎年、校長面接をしながら感心することがあります。それは、その封書をもう見つけているのかなと思う人が多くいることです。将来、海上保安官になりたい、保育士になりたい、獣医師になりたいなどと話す人が多く、どうしてそう思うようになったか、どんな仕事で貢献したいかなど具体的に話す人がたくさんいます。しかし、一方で、これから高校や大学で見つけていこうという人も多くいるのも事実で、それもいいと思います。

ただ、森先生の言葉はこう続きます。

「しかし、せつかく天からもらった封書（手紙）を一回も開かないままで死んでいく人が多い。」

森信三先生が言うように、封書を見つかり開いたりするのは意外と難しいことなのかもしれません。

ちなみに、私はちょうど50年前、9歳の時に思い切りパサッと封書を開きました。当時の担任の先生が素敵な先生だったので、学校の先生になりたいとはっきり思いました。当時、私の世代では、ジャイアンツの長嶋茂雄や王貞治などが憧れのヒーローでしたが、私たちにとっては、担任の嵯峨先生がスーパーヒーローだったのです。不思議なもので、高校や大学の授業はあまり良く覚えていませんが、50年たった今でも嵯峨先生の授業や話の内容をよく覚えています。つまり、私の封書には将来教師になることが書かれていて、嵯峨先生に出会うことで封書が開かれたわけです。

人の一生の中で、一番多くの時間を費やすのが職業・仕事でしょう。自分の選んだ職業で好きな仕事をし社会に貢献していく。この仕事をしている時間が幸せなら、幸福な人生になるでしょう。河東中の生徒はみな、将来自分の求める職業に就き、それぞれの分野それぞれの世界で活躍し、幸せに暮らしてくれることを願っています。

最後に、森信三先生の言葉をもう一つ紹介します。とても素敵な言葉です。

「人間は一生のうちに会うべき人には必ず会える。

しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。」

## 教頭 笠井 康行 先生



本年度より河東中学校に赴任しました笠井康行と申します。1年間どうぞよろしくお願いたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定されていた体育祭が2度も延期となり、5月27日（金）の平日開催となりました。一番心配したのは、子どもたちの体育祭に向けたモチベーションの維持でした。しかし、そんな心配をよそに、子どもたちはそれぞれの持つベストパフォーマンスを発揮してくれました。「さすが河東中生！」思わずそう叫ばずにはいられない時間でした。素敵な時間をくれた子どもたちに感謝です。

話は変わりますが、生徒昇降口にこんな詩が掲示されています。ご覧になられたことはありますか？

「そろえるころ

心がそろろうと 履き物もそろろう 脱ぐ時にそろえておく  
履く時に心が乱れない

誰かが乱しておいたら、黙ってそろえてあげましょう

そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう」

長野県円福寺のご住職の方が書かれたものだそうです。こんな思いを持ち、黙って行動できる子どもたちが多い河東中学校。

この1年間、一人でも多くの子どもたちの心がそろうよう、そして、美意識が育まれるよう保護者の皆様のお力をお借りし尽力してまいります。ご協力を願います。

## PTA 会長 吉原 尚志

日頃からPTA活動に対しましてご理解、ご協力いただきありがとうございます。

相変わらずのコロナ禍で、なにもしないではなくできることを考えようと言いますが、いざ、まわりで感染が広がるとなにもできなくなるもどかしい日々の連続です。

そんななか5月27日に第37回体育祭が開催されました。

校内にてコロナ感染が広がったりと2度の延期を経た開催となりました。非常に難しい判断の連続でありました。

その連絡のなかで先生方から何度も聞いたのが

「子どもたちに、3年生に絶対体育祭をさせてあげたい。」という言葉でした。

私には、河東中野球部に在籍した卒業生の息子がいます。その部活動で「夢叶うまで挑戦」という言葉がありました。今回の体育祭開催に向けて先生方はまさにこの言葉通りでした。その先生方の熱い想いもあり、あのような素晴らしい体育祭となりました。

主役は子どもたちです。ですが先生方のこのような想いもあつての開催であったことを少しでも知ってほしく、ここに書かせてもらいました。

私たちPTAも子どもたちや先生方の熱い想いに負けぬよう、今年度のスローガン「未来を、自ら、切り拓こう 子どもたちと共に」で活動していきます。

## PTA本部役員

会長	吉原 尚志
副会長	綿島 良一
副会長 (母親代表)	恵農美和子
書記	木脇 礼子
書記	鈴木 淳子
会計	戸木 優子
会計	吉田奈々恵

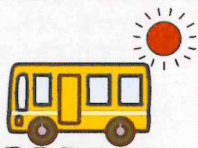
よろしくお願いたします

# 体育祭

令和4年5月27日(金)



## 修学旅行



GOOD!

4月27日(水)  
~28日(木)  
【1泊2日】



三井グリーンランド

「Go!Go!」

ペーロン体験



2年生の時の修学旅行が延期となり、グリーンランドや長崎市内別自主研修やペーロン体験を行いました。